

## 巻頭言

### 新型コロナウイルスとEWEの活動

早稲田電気工学会 会長 佐藤 勝雄



2020年春から新型コロナウイルスの脅威にさらされ、社会活動が大幅に制限されました。感染症というスペイン風邪くらいしか知識がありませんでしたが、免疫がないと現代の医療でも、簡単には収まらず数年はwithコロナ時代の新しいライフスタイルを模索しなければならぬようです。

科学技術を進歩させるきっかけは、今まで戦争や宇宙科学と言われ続けました。ところが、2000年代に日本を襲った非常事態が、電気・通信・情報に関する様々な技術を普及させています。

2007年新潟県中越沖地震では、①電子メールシステムの早期復旧が要請され、電話やFAXよりも、同報機能や相手の時間で閲覧や返事ができる利便性が評価され、行政や公益企業で一気に展開しました。

2011年東日本大震災では、発電所の被害から②発光ダイオード照明LEDと③太陽光発電システムが普及して、電力の需要と供給のバランスをとることに貢献しました。

携帯電話については、数が多い小規模基地局の復旧が遅延したことから、各都道府県単位で④広域を1～2基でカバーする高性能広域アンテナと非常用電源を持つ基地局が設置されました。

鉄道では、停電により駅間で列車が長時間停止し、乗客救助が難航しました。その経験から、⑤リチウム電池やニッカド水素電池により非常時に電車を動かす方式が考えられました。地下鉄や新幹線の車両にバッテリーを搭載する方式と、モノレール用の変電所に大容量のバッテリーを設置する方式の2通りがあり、すでに実用化されています。

2020年新型コロナウイルスでは、感染予防の観点から、在宅勤務とリモート授業への社会変革が起り、⑥テレビ会議システムや⑦クラウド型業務システムが一気に推進されました。感染危機が去っても、従来の業務出張や対面営業などは

減少し、バーチャルオフィスが増加し、リアルオフィスに戻れない状況になるでしょう。このため、東京一極集中による通勤地獄は、突然に解消されつつあります。また、⑧ワークフローシステムの電子承認により、日本独自の判子文化も衰退していくでしょう。病院では⑨オンライン診療が普及しました。

デジタルトランスフォーメーション（DX）は、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義されています。新型コロナウイルスがDXの強力な推進役を担っているのは皮肉な話です。

社会変革と技術の普及には何らかのきっかけが必要ですが、推進力の大きいのは革新技术や低価格より、社会の必要性のようです。

最近のEWEの活動については、2019年度後半から例年と大幅に異なり、負の局面で推移しています。

異常気象の大雨の影響で、ソフトボール大会とホームカミングデーを中止しました。

2020年4月から新型コロナウイルスの非常事態宣言発出の為、第4回理事会から電子メールにより開催を行い、5月の総会・講演会・懇親会を中止しました。

新年度は、世界全体で新型コロナウイルスの脅威が止まらず、大学もリモート授業に切り替えました。

今年度のEWE活動は、①電子メールによる理事会開催②「EWE先輩と学生の交流会」のリモート開催③事務所引越し④過去の会報の電子化・製本⑤新春企画として笠原副総長の『早稲田大学におけるCOVID-19対応オンライン教育』をHPに掲載⑥第62号会報発刊でした。また、近く三月会もリモートで活動を再開するとの朗報も届いています。

会報では、「新型コロナウイルス禍での大学のリモート授業と会社の在宅勤務」について特集を組みました。

未曾有の事態に、今後も会員、理事、活性化委員会、事務局の皆様と共にEWEの絆を継続するため努力していきますので、ご協力とご支援をよろしくお願い致します。